

株式会社京浜理化工業（東京都）

～ 知的財産権で大企業と競い合う ～

1. 技術開発が天職

株式会社京浜理化工業は、大手企業ができない分野の開発を積極的に行っており、創業後すぐに、大学からの依頼がきっかけで、石油化学プラントで使用する磁力利用攪拌機を開発したのを始め、これまでに数多くの独自技術を開発してきている。

佐瀬社長は、自ら機械を操作してモノを作ったり、技術を開発したりすることが楽しみとしている。旋盤会社勤務時代には、大田区工業技能競進大会で入賞するなど技術力に自信があったため、自分のアイデアを製品化すべく昭和52年に独立した。

最近では、携帯電話やノート型パソコンで利用されているリチウムイオン電池のガス漏れ検出装置を開発したところ、すぐに大手企業に採用された。リチウムイオン電池は、完全放電しない状態で充電する場合であっても、完全放電後に充電したのと同様の使用が可能という利点があるが、内部でガスが発生し、このガスが漏れた場合、爆発が起きる危険性があるため、電池ケースの外壁を検査する必要がある。

京浜理化工業では、佐瀬社長自らが溶接を得意としているほか、材質の温度を均一にしたり、圧力に関する技術を持っており、アイデアがひらめいたらまずはやってみることで発明を生み出している。

2. 日頃の経験から知財を覚える

かつて、同社が既に特許を取得している技術であるにもかかわらず模倣した大手企業に対して屈せずに訴訟対応をした結果、裁判で費用や時間がかかってしまった経験があり、こうした模倣品被害、訴訟経験を踏まえ、現在では大手企業との共同開発・共同出願も行っている。これは、大量生産品については、自社工場を拡大して生産を行うよりも、大手企業の工場に生産を任せの方が製品化や販売で有利だけでなく、たとえ裁判等になったとしても訴訟費用等を自社のみで負担する等のリスクも軽減されるからである。また、自社では研究開発のみを行い、製品化は大手に任せるといった方式も採用している。

特許出願に関し、製品については特許を取得し、製品を作るための工場内の装置や工場内だけの技術についてはノウハウ管理とする対策によって、模倣品を作らせない取組みも行っている。加えて、製品には、分析できないように、分解すると部品が壊れてしまうような工夫をしている。

最近では、大田区産業振興協会等を利用して知的財産制度に関する知識習得にも熱心に取り組んでおり、これまで経験してきたことに加え、幅広い知識を習得することで、知的財産権を有効に活用したいと考えている。

【保有権利に基づく製品例】



試験用電池セル

本製品は、リチウムイオン二次電池等の電極材料を評価するための密閉容器であり、学会等で数多くの使用例として紹介され、現在では世界中の研究機関で使用されている。

<会社概要>

名称及び代表者名	株式会社京浜理化工業 代表取締役社長 佐瀬 都司
本社所在地	東京都大田区本羽田1-26-16
創業	1977（昭和52）年
資本金	1,000万円
従業員数	7名
主要製品	アルミ安全弁、リチウムイオン2次電池の正極・負極・セパレータ実験用機具、臭いセンサー、等研究・実験用機器
電話	03-3745-0133
URL	http://www.keihinrika.co.jp/